

FIDIC News May 2011

訳責：国際活動委員会 CB 分科会

脚注：この抄訳は若手メンバーの翻訳を分科会で監修したものです。

A. 活動 (FIDIC -Activities)

A.1 FIDIC 2011 年大会の登録開始 (Registration open for FIDIC 2011 Conference)

FIDIC 年次大会は、コンサルティング・エンジニア (CE) 業界における最大の交流行事であり、2011 年大会「現地の資源と地球規模での展望」の登録が開始された。開催地はチュニジアからスイスのダボスに移り、開催期間は 2011 年 10 月 2 日ー5 日となった。今大会では、今後さらなる発展が見込まれ、開発に対して最先端の解決策を提供する分野における先進技術に焦点が当てられる。大会参加者は、ビジネスやエンジニアリング分野の専門家からのヒアリングや議論を行うことができ、様々なワークショップやセミナーを通じて FIDIC の活動に貢献することもできる。



開催地は変更されたが、アフリカに関する関連事項が強調される北アフリカの香り漂う大会となり、アフリカ、特に北アフリカにおける世界的傾向および展望に関連する CE 業界の将来像が報告される。さらに、広範囲にわたるビジネスプログラムに加え、主催者である FIDIC と ANBEIC (チュニジア協会) は多様なソーシャルイベントプログラムを企画しており、参加者およびその随行者はチュニジアの情緒を楽しみながら、スイスの田園の美しさを目の当たりにすることになるであろう。

[AJCE より] AJCE ではホテルと航空券をセットにした格安ツアーを準備しております。詳細は AJCE 事務局へお問い合わせください。

A.2 ウィーン会議における共同宣言 (Joint declaration issued at Vienna conference)

FIDIC 会長の Gregs Thomopoulos と FIDIC 理事 Andreas Gobiet は、2011 年 5 月 12-13 日にウィーンにて開催された「エンジニアリングと建設プロジェクトマネジメントを成功に導くための重要要素に関する合同会議」において、2 日目の「革新的な契約と賢明な契約管理」に関するセッションにて講演を行った。会議はオーストリアコンサルタント協会 (ACA、オーストリア協会)、FIDIC、国際建設プロジェクトマネジメント協会、オーストリアプロジェクトマネジメント、オーストリア建築エンジニアリング企業協会によって開催された。会議の特集イベントは FIDIC 次期会長である Geoff French が参加した、契約の革新的体系に関する公開討論であった。初日は「建築物やインフラプロジェクトにおける知的システム」が取り上げられ、持続的な都市開発について深く掘り下げた討論が行われた。FIDIC 理事会が会議直前に開催され、この会議はウィーン宣言として FIDIC と ACA が以下に示す項目を要望する場として活用された。

- ・ 卓越性と革新の促進
- ・ 品質ベースによる選定
- ・ 価格競争と不均衡な契約の回避
- ・ プロジェクト初期段階の重要性
- ・ 変化の早い社会の要求に応えられる若手技術者の育成
- ・ ビジネス公正管理のサポート

A.3 BST グローバルが FIDIC の戦略的パートナーに (BST Global becomes a FIDIC Strategic Partner)

FIDIC と BST グローバルは、2011 年 1 月 27 日、今後 7 年間の戦略的な提携関係を締結することを発表した。BST グローバルは、コンサルティング・エンジニアリング、建築および環境コンサルタントに対して企業業務管理ソフトウェアソリューションを提供する世界有数の組織である。



提携合意文書では、企業業務管理ソフトウェアソリューションや、エンジニアリングおよび環境コンサルティング産業でのサービス分野で、BST グローバルが唯一かつ独占的な FIDIC の戦略的パートナーであることが示されており、BST グローバルと FIDIC は、多くの戦略的なイニシアティブに対して世界的に協働することに合意している。合意文書は BST グローバル副社長 Javier Baldor (右側) と、FIDIC 会長 Gregs Thomopoulos により、ブリュッセルにて署名された。詳細は BST グローバルの記者発表に掲載されており、「BST グローバルは、能力開発分野において FIDIC にとって計り知れぬほど重要なパートナーとなった。BST グローバルは、より広範な FIDIC の活動に対する支援に長期的及び戦略的に関わることを決定していただき、我々はそのことを誇りに思っている。」と Gregs Thomopoulos は述べた。

A4 FIDIC アジア太平洋会議、持続可能性に向けてのイノベーションを強調 (FIDIC Asia-Pacific conference highlighted innovation for sustainability)

FIDIC ASPAC (FIDIC アジア太平洋地域会員協会連合) 2011 会議「グローバル化した世界における持続可能性」(於クアラルンプール、2011 年 4 月 25-26 日開催) では、持続可能性達成に向けての創造的、革新的、かつ実践的なアプローチが焦点となり、持続可能な開発を達成するための新しいアプローチ、解決策とメカニズムの成功例および実践例が強調された。会議は建設産業開発委員会 (CIDB) 主催で、マレーシア・コンサルティングエンジニア協会・FIDIC ASPAC・アジア太平洋地域技術コンサルタント開発プログラム (TCDPAP) の共同後援で開催された。



Shaziman bin Abu Mansor 労働大臣、Hamzah Hasan CIDB 議長、K.A. Chaudry TCDPAP 議長、Gregs Thomopoulos FIDIC 議長、Dennis Sheehan ASPAC 議長らによる歓迎の辞に続き、地域の活力ある経済発展に持続可能性を組み込むための各国のイニシアティブが報告された。以下に挙げるような重要課題が一連のワークショップの場で取り上げられ、それらの促進のためコンサルタントが果たす役割が再検討された。つまりグリーン・エネルギー発電およびグリーン・ビルディング、環境に優しい低炭素開発、グリーン・イニシアティブにむけてのインセンティブ、持続可能な建設のコスト、デザインによって推進される持続可能性、環境に配慮した施設のデザインと建設、開発中の技術・再生可能エネルギー・迅速な交通システムの商業化、新たな技術的アプローチ (特に土工安定化のための土壌バイオエンジニアリング) といった課題である。発表成果物は会議のウェブサイトから取得可能である。TCDPAP・FIDIC ASPAC 2012 会議は 2012 年 3 月にスリランカで開催されることが発表された。写真は Hum-il Moon KENCA-KOREA 議長と Gregs Thomopoulos FIDIC 会長 (右側) である。両者は、会議の場で、2 日間のコース・モジュールに基づいた FIDIC 契約約款と成功事例を学ぶ約 160 時間の FIDIC・KENCA 公認訓練プログラムを構築する合意文書に調印した。

[AJCE より] 日本からは廣谷彰彦 FIDIC 理事、内村好 ASPAC 理事・AJCE 副会長らが出席しました。会議の様子を AJCE ホームページに掲載しております。

B. 事業展開 (Business-Development)

B.1 委員会活動の緊密な連携 (Close coordination of committee activities)

2011年初めに毎月開催されたヨーロッパコンサルティング・エンジニア協会 (EFCA) の上級職員協議、更に、2011年3月11日のEFCA役員・事務局長会議、2011年5月26日のEFCA総会の期間中に、FIDICとEFCAが委員会活動の連携を強化する件に関する協議が行われ、その方針が確認された。ある特別な問題、特に調達政策・手順およびEUが資金援助するプロジェクトでのFIDIC契約約款の使用について、欧州委員会と議論強化していくことをフォローアップすることも計画されている。それは、コンサルタント選定時とプロジェクト実施時の両方において国際的に受け入れられている基準を使用する利益を、より長期にわたり活発に進めていくことを目的としている。FIDIC標準契約約款国際融資機関版の使用、持続可能な標準、基準、ビジネスツール、公正管理に関する作業等の領域においてより緊密に連携することも考えている。

C. 実務 (Business-Practice)

C.1 持続可能な建築・建設グローバルフォーラム (Sustainable Building and Construction Global Forum)

持続可能な建設を責務とする建築・建設・インフラセクターのステークホルダーを代表する国際非営利組織のグループが 2011 年 1 月に会合を開き、持続可能な建築・建設グローバルフォーラムと呼ばれる新たな世界協定が始動した。各組織での委員会による承認を条件として、パートナー組織は、約 1500 万人の労働者を代表する国際建設林業労働組合連盟、約 500 の会員研究組織を代表する建築・建設における研究・技術開発のための国際協議会、FIDIC、国際サステナブル建築環境推進機構、個々の研究者と活動家の世界的なネットワークおよび国際労働事務所で構成される。新しいフォーラムへの参加を確認するために、現在、他の代表国際組織と議論を行っている。そのフォーラムの第一の目標は、先導的国際的プラットフォームで建築、建設、およびインフラセクターの代表となることである。ビル評価システムなどの近年の商業イニシアチブが出現し、セクターの役割と重要性は最高レベルで適切に認識される必要がある。

D. 契約約款 (Business-Contracts)

D.1 ルーマニアが FIDIC 契約約款を再採用 (Romania re-adopts FIDIC contracts)

2010 年の半ば、ルーマニア政府は公共事業に FIDIC 契約約款を用いることを必須要件とすることを取り止めた。産業界、FIDIC、ARIC ルーマニアによる懸命なロビー活動の末、FIDIC のような国際的に認められた契約約款を用いることの優位性が認められ、2010 年 12 月、ルーマニア交通省は FIDIC 契約約款を再採択することに合意した。

政府出資のプロジェクトを対象に、FIDIC 契約約款を発行、配布するためのライセンスは財務省から交通省に移管された。標準的で、バランスが取れ、広く認知されている契約約款一般条件書に優先する広範囲にわたる特定条件書に起因した負の影響が生じつつあるものの、議論は今なお継続している。特に懸念されるのは、紛争裁定会議を中止する事態になっていることと、紛争を解決する唯一の手段として国内の裁判所で決裁しているケースがみられることである。

東・中央ヨーロッパの他の地域についても、導入に関して同様の傾向であると考えられるため、FIDIC は負の影響について欧州委員会の関係者にアドバイスするために、欧州連合 EFCA に問題提起している。

D.2 FIDIC 標準契約約款 国際融資機関版の見直しに伴う特別会議 (Special FIDIC conference reviewed the MDB Harmonised Contract)

FIDIC 標準契約約款国際融資機関版(MDB 版)は、環境面および社会的な責任を確保した調達を続けるための主要な手段の一つである。FIDIC 標準契約約款国際融資機関版会議 (2011 年 1 月 27、28 日、於:ブリュッセル) では、契約の条文の背後にある論理的背景やそれらがどのように供されてきたか、そして、最初の 5 年間のユーザー経験と将来的な展開を分析した。契約に参加するすべての銀行は、調達に関するベストプラクティスの促進と統一契約条件の採用に関与する国際機関・組織とともに出席していた。



参加者は、MDB の代わりに議長を務めた世界銀行の Bernard Becq 調達長 (写真左から 4 番目) により歓迎された。そして左から、国際建築業協会連盟(CICA)の Daniel Tardy 会長、国際土木建築協会 (BWI) の Ambet Yuson 事務総長、Gregs Thomopoulos FIDIC 会長、Bernard Becq 調達長、欧州エンジニアリングコンサルタント協会連盟 (EFCA) の Jan Bosschem 次期会長。

MDB 契約の運用については、会議に出席した発表者により要約され、発表者は以下のとおりである。国際建築評議会(CIB)の Peter McDermott 教授 (オランダ、Salford 大学[イギリス])、欧州国際請負業協会(EIC)の Frank Kehlenbach 氏 (ディレクター)、国際商業会議所(ICC)の Jason Fry 事務局長、国際標準化機構(ISO)の Ron Watermeyer 博士 (建設調達プロジェクトリーダー)、国連プロジェクト・サービス機関(UNOPS)の Braye Sutherland 氏 (インフラのグローバルプラクティスリーダー)、経済協力開発機構(OECD)の Daniel Ivarsson 氏 (公共調達のシニアアドバイザー、SIGMA)、ミレニアム・チャレンジ・コーポレーション(MCC)の Ellen Moran 氏 (インフラのシニアディレクター、アメリカ)。

会議は EFCA 主催で FIDIC、BWI、CICA により構成され、プレゼンテーションの資料は、www.fidic.org/mdb2011 で閲覧可能である。契約条件を改善するための提案や、その実現に向けて銀行とのさらなる議論を行うための提言などの詳細なレポートについては後日公表予定である。

E. 協会活動 (Industry-Representation)

E1 GAMA-Africa の新たな自発的戦略 (GAMA-Africa plans new initiatives)

FIDIC GAMA-Africa (FIDIC アフリカ地域会員協会連合) 活動支援のための新たな方策が、事務局とともに検討されている。事務局はこの件についてタンザニアエンジニアリングコンサルタント協会に委託する手続きに入っている。今後 2 年間に、FIDIC 加盟国数を増やすために、アフリカ内のより強固なネットワークが計画され、発展戦略が実施に移された。FIDIC GAMA-Africa はさらに、FIDIC 年次大会開催国と共に緊密に活動することで、FIDIC 年次大会に向けてさらに戦略的アプローチを進める予定である。この中で、アフリカ内の企業強化のための効果的方法だけでなく海外企業との協力体制の推進方法を視野に入れながら、能力開発手法に特に焦点があてられよう。一方、中南米コンサルティングエンジニア連盟 (FEPAC) がペルーの事務局設立のために開発した手法によって、効果的な地域代表制の持つ重要性が明確になった。



E2 アフリカに焦点を当てた 2011 年 FIDIC 大会 (FIDIC 2011 Annual Conference to focus on Africa)

FIDIC GAMA-Africa (FIDIC アフリカ地域会員協会連合) は、現在計画されているスイスのダボスでの 2011 年 FIDIC 年次大会の更なる支持を表明するため、GAMA-Africa の 2011 年年次大会を取りやめることを決定し

た。特に、地域レベルでの国際的なベストプラクティス（最適手法）の適応と導入についてのコンセプトからすると、今度の FIDIC 年次大会は、能力開発に関する GAMA-Africa（FIDIC アフリカ地域会員協会連合）の戦略的な利益との密接な関連に焦点があてられると見られる。最近の北アフリカでの事件により、インフラ投資と経済発展とのより密接な関係がさらに重要になるにつれて、地域内ネットワークと国際的なネットワークの重要性が新たに注目されるであろう。最近のアフリカ開発銀行のレポートでは、アフリカのインフラ格差への取り組みが依然重要課題のままであるが、より広い改革もまた、法の支配を強化するのに必要であることが強調されている。

F. イメージ (Industry-Image)

F.1 百周年記念特別賞についての事前のお知らせ(Advance notice of special centenary awards)

FIDIC は、2013 年 9 月にバルセロナで催される 2013 年度 FIDIC100 周年大会で 100 周年を記念する特別賞を贈呈する計画である。この賞は、過去 100 年における優れたプロジェクトやコンサルティング・エンジニアリングに関する功績を賞賛するもので、コンサルティング・エンジニアとしての仕事や日常生活に対する貢献を広く一般に知ってもらうことに役立つことになる。

FIDIC 会員協会に対して、2012 年には、候補者推薦の募集が行われる。推薦は、世界的に認められ、技術的卓越性・革新性、永続性及び持続性を有するプロジェクトや個人の貢献に対して行われる。

G. 倫理 (Principles-Ethics)

G.1 OECD 汚職防止会議 G20 に参加(OECD anticorruption conference prepared a G20 summit)

2011 年 11 月、G20 諸国のリーダーたちは、腐敗防止のための最善手法やその他の先導的活動を実証するために、民間セクターとのより緊密な連携を誓った。2011 年 4 月 27、28 日に開催された G20 諸国-OECD 会議 (Joining Forces against Corruption: G20 Business and Government)では、この誓約に応じるための第一歩が示され、腐敗防止の遵守、公共事業調達における腐敗、セクター別の腐敗防止に対する促進活動の有効性に関する議論がなされた。この会議の結果は、2011 年 11 月にフランスのカヌで開催される G20 サミットに先立って開かれる、G20 ビジネスサミットへの情報提供となる。FIDIC のコンサルティング・エンジニア業界における腐敗リスクの認識と削減に関しての経験と専門性が評価され、次期 FIDIC 総裁である Geoff French 氏は、特定部門における先進的な腐敗防止の一例として、FIDIC の統合的マネジメントシステム(FIDIC Integrity Management System)についてプレゼンするよう、G20 諸国-OECD 会議に招待された。

H 持続性 (Principles — Sustainability)

H.1 開発銀行による気候変動への取り組みに対する調整 (Banks aim to harmonise approaches to climate change)

全ての主要な多国間開発銀行（世界銀行等）は、これら銀行が関する全てのプロジェクトについて気候変動に関する配慮のモニタリングを担当する気候変動チームを設立した。したがって、最近ワシントン DC において開催された FIDIC との協議は、銀行間におけるインフラ投資への意思決定における経済及び環境社会配慮への取り組みを統合することについて協議が行われていることを示唆しているが、同じような首尾一貫したアプローチがデューディリジェンス（投資対象の的確性を把握するために行う調査活動全般）に適用されないことは、不幸なことかもしれない。FIDIC は、銀行が気候変動に対する緩和措置とデューディリジェンスの方針を定める際に、持続可能性指標の開発への支援を依頼されていた。いくつかの銀行は現在、気候変動をあてにした融資

により気候変動対策に掛かるコストの相殺を狙っているが、彼らのカーボントレーディング (CO2 排出権の売買) やグリーン調達 (企業等が使う資材や原料を、環境負荷の低いものから優先的に選択する事) といったアプローチ方法にはいくらかの矛盾がある。FIDIC が現在更新中のプロジェクト持続可能性管理ガイドは、コンサルティング・エンジニアが直接取り組んでいる問題に焦点を当てている。そのガイドは設計やプロジェクトの実施において重大な影響を及ぼす側面に焦点を当てており、持続可能性指標の構築について議論する際の手助けとなっている。

I. 行事 (Announcements-Events)

I.1 FIDIC 会長 が OPAL 賞受賞 (FIDIC President receives OPAL Award)

米国土木学会 (ASCE) 優秀プロジェクト・リーダー (OPAL) 賞は、ASCE メンバーに限らず、世界で最も評価され、かつ卓越したインフラシステムの設計・建設に携わった先駆的な土木技術者の業績を称える最高の賞である。2011 年 3 月にワシントン D.C. で、FIDIC 会長 Gregs Thomopulos は、生涯の実績とマネジメント部門 (5 つのカテゴリの一つ) での重要な業績 (発表を参照) によって、2011 年の OPAL 賞を受賞した。Gregs は、受賞について次のようにコメントした。「私は専門家としての経歴の中で授かった機会と、幸運にも仕事を共にし、受賞を可能にしてくれた、素晴らしい人たちに恵まれた。」



授賞式に出席した FIDIC の同僚との写真: 左から、FIDIC 常務 Enrico Vink、FIDIC 前会長 Dick Kell、FIDIC 理事 Pablo Bueno Tomas、Gregs Thomopulos、FIDIC 次期会長 Geoff French、FIDIC GAMA 議長 Mayen Adetiba

I.2 FIDIC 会議と行事

2011 年 6 月 6～7 日: FIDIC-ECV 契約約款コース (契約約款)、ブリュッセル

2011 年 6 月 6～7 日: FIDIC 契約約款集中コース、タンザニア

2011 年 6 月 16～17 日: ICC-FIDIC 契約約款・紛争解決会議、サンパウロ

2011 年 6 月 21 日: APPC-FIDIC ポルトガル建設契約約款発足セミナー、リスボン

2011 年 6 月 29～30 日: DRBF・キングス・カレッジ ロンドン裁定会議、ロンドン

2011 年 6 月 30 日～7 月 1 日: FIDIC-基礎契約約款ワークショップ (契約約款)、ブカレスト

2011 年 10 月 2～5 日: FIDIC-2011 ダボス大会、ダボス

K. 報告 (Announcements - Notices)

K.1 理事会による広報活動の見直し (Executive Committee reviews publication activities)

FIDIC2010 報告より。FIDIC 理事会は、スイスフランが依然として強いことから、10 年ぶりの FIDIC Bookshop の値上要求を了承した。この値上は、契約約款が新規増刷される 2011 年 6 月に導入される。契約委員会は、FIDIC 約款が事実上の国際規格であるため、著作権違反、特に政府省庁による無認可の一方的な変更には注意喚起した。ライセンスのある翻訳に対して望ましくない変更や無許可のまま変更が行われていたルーマニア政府省庁に対しては、協議の場を持つ約束を取り付けた。また、中国開発銀行とインドネシア建設省との間で、FIDIC 標準契約約款国際融資機関版を用いる許可を段階的に与えることが同意された。参加銀行の標準入札

書類に反映された英文および翻訳文が、正確かつ最新の内容であるかどうかについては、懸案事項として残された。また、FIDIC は、銀行で使用される言語への翻訳に対して責任を取るかどうかについて検討していた。

その他の Bookshop の活動として、FIDIC 契約約款 1999 年版の新しい翻訳版（とりわけ、イタリア語版とポルトガル語版）が出版された。翻訳数は 15 カ国に上る。FIDIC は、FIDIC 標準契約約款国際融資機関版に関するヨーロッパ国際建設協会による新しい手引きの販売についても同意した。一方、浚渫及び埋立て工事の契約約款（FIDIC Blue Book）の更新と、国際的トンネル協会での特殊トンネルの契約条件書の審議が承認された。また、国際建築家連合版の発注者・コンサルタント間の標準サービス契約書（FIDIC White Book）の位置付けの明確化が求められた。

以前からある他の重要文書の位置付けが見直された。これらの文書には、気候変動と有限責任に関する政策方針、FIDIC 委員会が昨今、常任理事会による正式な承認に先駆け見直しを行った新しい調達手順手引き（表紙参照）、FIDIC 公正管理システムの手引きを補足する新しい公正遵守マニュアル、能力開発と品質・技術による選定方法（QBS）を紹介する改訂版パンフレットが含まれている。最後に、プラント・設計・施工一括契約約款（Design Build）の下請け契約約款と、災害管理手引きを作成するための仮設作業部会が承認された。



以上